

第1回宇治市文化芸術振興基本計画策定委員会議事録

日時 令和3年7月19日(月) 午後2時～午後4時

場所 宇治市役所8階 大会議室

出席者

宇治市文化芸術振興基本計画策定委員会

委員長 滋野 浩毅

委員 門脇 洋子

〃 柴田 宗啓

〃 矢野 友次郎

〃 山路 興造

〃 山本 淳子

〃 吉水 利明

オブザーバー 高橋 和男

事務局

市長 松村 淳子

産業地域振興部長 脇坂 英昭

産業地域振興部 文化スポーツ課長 久泉 昭人

〃 文化スポーツ課 副課長兼文化係長 木田 陽子

〃 〃 文化係 主事 池田 美由紀

他1名

資料

- ・次第
- ・第1回宇治市文化芸術振興基本計画策定委員会資料
- ・活動者アンケート(案)
- ・参考資料1 宇治市文化芸術振興条例
- ・参考資料2 計画等に対する意見まとめ

会議内容

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 市長挨拶

宇治市では文化芸術振興を推進し、施策にしっかりと取り組んでいくために宇治市文化芸術振興条例を制定した。これまで様々な取り組みを行っているところであるが、昨年度、紫式部文学賞、紫式部市民文化賞は30周年を迎えた。新型コロナウイルスの関係で大きな記念事業はできなかったが、宇治市として様々な形で最大限の発信はさせていただいたと思っている。

これからの宇治市の文化芸術を考えた時に、京都の中での第二の都市、その中で古い歴史を持ち、古の文化を先人たちが築きあげたことを踏まえた上で、新しい息吹を吹き込んだ文化芸術を進めていく必要があると私自身感じている。

本委員会そのものは文化芸術基本法に規定される、「地方文化推進基本計画」の策定および計画に必要な事項を協議する場として設置する。基本計画策定に向けて、皆様方のこれまでのご経験あるいは、お知恵や様々なご意見をいただきながら、宇治市として作り上げたいと思っている。

計画そのものを作ることが目的ではなく、計画の後にどういった形で展開していくかが重要な要素だと思っている。大変短い期間ではあるが、忌憚のないご意見をお願いしたい。

4. 委員、事務局職員紹介

5. 議事等

(1) 委員長挨拶

経験豊かな皆様方の前で若輩者が担当させていただくことは甚だ僭越ではあるが、この委員会をしっかりと舵取りしていきたい。皆様のお力添えを頂き、よい委員会にしていけたらと思う。

(2) 委員会の会議の公開について

委員会の会議は公開と決定。

(3) 宇治市文化芸術振興基本計画の策定について

事務局より「宇治市文化芸術振興基本計画の策定について」（資料6 ページ～9 ページ）の説明。

(委員)

8月の第2回ワークショップは、この間の市政だよりに載っていたものか。

(事務局)

指摘のとおり。

(委員)

本日は、ワークショップの案内資料はあるか。

(事務局)

今日は、案内資料はない。

(委員)

宇治という市をよく見てほしい。一つは何かというと宇治市は変な合併がなかった。平成の大合併が行われたところは、地域ということに苦しんでいる。

ある自治体では6つぐらいの町で構成されたが、それまで作ってきたそれぞれの町を中心とした文化が、全部ある意味では壊れてしまって、もう一回、その自治体という範囲での文化を探り出さなければいけなかった。その点で、宇治市は大きな影響は受けずにこれまでの宇治の文化を受け継ぐことができた。そういう点ではよかった。地域が3地域に分かれているので、それをどう上手く融合していくかが大きな問題となってくる。

もう一つ言いたいのは文化財という言葉。財というのは何かと言うと宝。宝として国は文化を見てきた。地域によっては文化遺産に名称変更しているところもあるが、あくまで大切にしていかなければならないのは財ではなく遺産。どういう意味かという、遺産というものは、その地域住民が歴史、時間をかけて守り伝えてきた地域のもの。まず、最初に何をやらなければいけないかという、その地域の人に「これが自分たちの先祖が自分たちの風土の中で育ててきた遺産である」といった意識を植え付ける。

そのために京都市は京都市民が伝えるべき文化遺産という取り組みを6年ほどかけて色々やってきた。それはいわゆるお宝ではなく、例えば京都市民が日々伝えている京都の文化・習慣。そういうものが何であるかということをもう一回確かめ直していく。そういうものを宇治市民が一人一人見つけてきて、「これは大切だから自分たちが守っていかないと」という意識を育てる。

宇治市の場合、驚くべきことに財で考えても大変いいものがたくさんあるのに、あまり市民が意識していない。自分たちが育ててきて自分たちが守るべき遺産であるということを一からきちんと掘り起こして、その気にさせることが、これからの地域づくりの一番重要なことではないかと思う。

(委員長)

スケジュールについて質問。ワークショップがすでに6月22日に実施されたということだが、今後の予定だと第2回、第3回がある。これは第1回で実施された内容と続きかあるいは別のテーマで行うのか。

(事務局)

1回目の参加者が、宇治市芸術文化協会。活動の現状や課題、また宇治市の文化芸術を今後どのようなことを目指していけばいいのか、といった内容の意見交換をした。

2回目、3回目は違うテーマで考えている。2回目はその時点の骨子案、3回目は初案をテーマに意見交換を考えている。

(委員長)

アンケートは8月とある。どれぐらいの期間を取って実施するのか。また、実際集まったアンケートを集計してどのぐらい分析するのか。単純集計または年齢層や性別、居住地に落とし込んで結果を出すのか。

(事務局)

アンケートは2週間ぐらいの期間で考えている。お住まいの地域・年齢・年代などの項目を設けた場合は、クロス集計も可能。本日の委員会で、アンケートの内容もご覧いただき、ご意見を頂戴したい。

(4) 宇治市文化芸術振興基本計画の骨子(案)について

事務局より「宇治市文化芸術振興基本計画の骨子(案)について」(資料10ページ)の説明。

(委員)

宇治市の文化芸術の予算規模は大体どのくらいか。

もう一つ、この基本計画の策定について、まず現状を把握して、目標を決めて、施策まで決めると思うが、その施策に対して戦略のようなものを決めてそれぞれの施策を具体的に決めて実践を図る、そこまですると考えていいか。

(事務局)

予算規模についての詳細の資料を持ち合わせていないため、後日回答する。

また、今回、柱立てした施策を事業に落とし込むのかという質問だが、できればそういった形を目指していきたいと考えている。ただ文化芸術というのは非常に幅広い分野にわたるので、なかなか事務局側としてもゴールが少し見えにくい。策定を進めながら考えていきたい。

(委員)

資料10ページの取り組みの柱・方向性の部分が戦略、その右側に書かれているものが様々な具体的な施策か。

(事務局)

指摘のとおり。現状事務局案の1つの表記のため、今後、ご意見をいただき、ブラッシュアップしていきたい。

(委員)

第1回紫式部文学賞の授賞式が文化会館であった。お祝いのイベントとして、宇治市の吹奏楽団の演奏をした。こういうときに市の吹奏楽団が演奏していけば、幅も広がる。

ところがそのあとにバブル景気があり、イベント自体を業者に委託した。しばらくそういったお金のかかるアトラクションがずっと続いた。途中から縮小していったが。

最初の芽生えのときに、そういうお金の使い方をせず、市民団体をうまく使いながら、イベントを盛り上げていけばよかったのではないか。イベント自体を業者に頼まないで宇治市民が作っていけるようにしていけば、もっと色々な分野が関わってこられたのでは。過去の失敗を振り返りながら、もっと宇治市民のグループを育ててほしい。

(委員)

宇治の色々なサークルが宇治の行事の中で参画していくという意見に大いに賛成。

今の宇治市の大きな文化活動の流れは、文化スポーツ課が中心。サークルは50数団体あるが、個々の練習以外は大半が公民館活動と重複している。

どこかで必然的に市長部局と教育委員会とが、いわば文化活動と生涯学習や公民館活動が線を引き合っているような感じがして仕方がない。そのことを一番実感しているのはサークルのメンバーだと思う。日々の練習は公民館の登録メンバーになり、公民館を利用し、公民館活動としてやっているのが実態だと思う。この現状を計画策定する中でどう考えていくのか。宇治市全体の文化活動に係る大きな問題だと思う。

10年間、生涯学習センターを借りて、文化活動をやってきたが、おそらくその一方で公民館活動の中で似たような活動をしているところもあったのかもしれない。

他の団体が文化活動をされていることを、行政がどのような形で吸い上げるのか。極端に言えば、何をしているのか分からないような感じで過ごされてきていることもあったかもしれない。全体的に今後の取り組みの中でできることは是正していかなければいけないし、市民の目にも映るようにしてほしい。文化が生涯学習の分野にも文化財や歴史分野にも入り込んでいるし、全体を網羅したようなことが骨子になっていくと思う。このあたりの整理の仕方を行政はどのように考えているのか。

(事務局)

文化芸術と生涯学習は線引きが非常に難しいところ。公民館活動とか生涯学習でされていることも一つの文化であると認識している。活動される場所が公民館やコミセン等いろんな場所でされている。あえて分断や縦割りで対応することは考えていない。

(委員長)

例えば、源氏ろまん事業で言うと30年の歴史、それから公民館活動でいうともっと長い歴史がある中で、宇治の文化や担い手を生み出してきたと理解している。

しかし、サークル活動のニーズが減ってきたという事実もある。それから紫式部市民文化賞の応募者も高齢化しているといった課題がある中で次の担い手をどのようにしていくのか。

担い手を生み出すことで新しい文化が生まれ、それが次の宇治の文化を作っていくといったことを考えている。宇治の中での文化というものを軸にした交流や発表、創作しあったり、学びあったりといった好循環が生まれるようなことができればいいと考えている。

(5) アンケートの実施について

事務局より「宇治市文化芸術振興基本計画策定のためのアンケート調査」(資料11ページ)について説明。

(委員)

市民向けアンケート問9で、どこで活動をされているかという項目があるが、できたら市内公共施設の名称を具体的に書くようなところある方がよい。

昭和59年に文化会館が開館して、それまで文化祭・芸術祭は基本的にアマチュアだけしかやっていなかった。お茶やお花の先生には参加してもらっていたが、いわゆるアマチュアだけでやっている文化の定義がなかなか上がらない。アマチュアの人にプロの優れた技を見てもらった方がいいし、プロの人にもアマチュアの発

表を見てもらうことで、文化の底上げをしようと基本料金を人数分払ってもらって参加してもらうという形に変えた。

参加が多くなってくると、どうしても練習場所がなくなってくる。そういったときに、公共施設のどこで練習をされているかという項目があった方が、具体的な策を検討できるのではないか。

(事務局)

使用施設が分かるような回答にできないか検討する。

(オブザーバー)

新型コロナウイルスを踏まえたアンケートの取り方について、府でも基本計画等で毎年アンケートを取っている。コロナ前とコロナの影響下では、リアルな体験ができない中でバーチャルな体験が増えて、アンケートの結果にもかなり変化が出ている。活動者向けアンケート問20の「コロナの影響下において文化芸術に親しむ頻度は変化しましたか。」については、おそらく大半の方が影響を受けておられる中で、どういった変化があったのか等の観点を加えてはどうか。

また、市民向けアンケートの方では問7の「新型コロナウイルスの影響を除いてお答えください。」という項目があるが、影響を除いて考えてしまっているのか。

この計画は令和4年度からスタートということで、コロナは収束に向かっており過去のこととして捉えて、文化芸術を考えていくことになると良く、この1年半から2年の経過も踏まえ、活動する側も観る側も変化していることも事実。そういった行動の変化も踏まえ、計画策定の工夫をされては。

(事務局)

変化についての記述やコロナの影響を除いてという設問については、もう一度、事務局で整理する。

(委員長)

コロナの影響下で文化芸術団体の発信や発表の方法が変わったと思う。京都市内で音楽関係のNPOの理事をしているが、全く人と接することができなくなってしまったときにどうしようかと考え、LINEやYouTubeなどを使って発信していくとか、あるいは実際に会えないけどメッセージを集めて曲作りをする等、とても工夫をされている。予算も限られる中で、知恵を絞られているので、アフターコロナにおける活動の変化も重要になってくるので、変化がわかればいいと思う。

(委員)

宇治市民にとって何が自分たちの守り伝えていくべき文化遺産であると考えているのかいくつか書いてもらう設問を設けてみる。年齢層によってどう考えているかが、ある程度分かるかと思う。

(委員長)

キーワードを抽出するといったようなイメージか。

(委員)

平等院と書く人もいる。そうではなく生活の中の何かを書いてくれる人もいるかもしれないし、年齢層によって考え方が違ってくるはず。

(事務局)

市民向けアンケート問22に一部入っていると考えている。「宇治らしさや宇治市の文化芸術で大切なこと、伝えていきたい・残していきたい宇治の文化芸術等についてご意見があればご記入ください。」とフリーで書いて頂くような形式にはなっている。

(委員)

文化庁が本格的に京都府へ移転するのがあと2年ほどだと聞いている。とても夢を与えていただいているような感じもするし、具体的に京都府民や文化芸術活動する者にとってどのような影響があるのか、ただ事務的に事務所が京都に来るだけなのか、アンケートにそこまで入るのかどうかかわからないが、あと2年先ぐらいにあること。なにかその辺りが少しでも分かっていたら、アンケートに入れておく必要がある気もする。

(事務局)

我々のほうで文化庁移転のスケジュールの詳細について把握はしていない。文化庁移転を契機に、改めて本計画を策定して宇治市の文化度を高めていきたいと考えている。その内容をアンケートに含めるかどうかは検討する。

(委員)

アンケート2種類を拝見して、ひとつは市民向けでもうひとつは団体の方向けということ。先程、委員長からも次の世代の担い手をどうやって育てていくか、担い手になる方々のニーズを汲み取っていくのかがとても大切だという話が出た。市民向けアンケート問11から問16の高校生以下のお子さん向けの回答が反映するのか。

お子さん自身のことではなく、例えば問11の「あなたが同居するお子さんの暮らしを豊かにするうえで、文化芸術は必要だと思いますか。」というように保護者の方があなたとなっていてその方がお答えくださいというような設問になっているが、お子さん自身の意見はどこに書かれるのか。

(事務局)

市民向けアンケート問11から問16の高校生以下のお子さんへの質問に対しては、親御さんからみて高校生以下のお子さんの文化芸術に対して答えるという形。お子さん自身がどのように思っているのかを聞く設問にはなっていない。

現段階で考えているのは、高校のクラブ等で文化活動されている方にアンケートまたはヒアリングで意見を聞く機会を設けたいとは思っている。

先日、文教短期大学で宇治学の講義をする機会があった。その際、文化についての意見をいただいた。そちらについては、参考資料2の2ページに出た意見を掲載している。1コマのみの講義だったので充分にお話をお伺いできなかった部分はあるが、それも若い世代の方の意見の一つとして聞いていけたらと思っている。

(委員)

12年間に渡る大変長い期間の基本計画を策定される。今は文化と考えるにくいような新しい分野も、若い方たちにとっては文化の範疇に入るものもある。そういった若い方の認識を十分に汲み取るようなアンケートにするためにはアプリの方が

答えやすい。

宇治市は夏に音楽フェスを開催されたり、アニメの本拠地があったり、若い方の文化がとても盛んなところだという認識がある。そういう方々の文化に対する意識をどんどん吸い上げることができるアンケートになればと思っている。

(事務局)

できる限り若い方のご意見が頂戴できるような工夫をしていく。

(オブザーバー)

文化庁は京都府庁の敷地内に建設している。令和4年度中に業務を開始する予定で整備をしている。単なる省庁の移転に留まらず、京都府の文化基本条例を改正した理由は、国の法律改正と文化庁の京都移転この2点での大きな契機があったから。

宇治市の新たな計画の方向性で観光産業、福祉、教育との結びつきをどんどん書いているのも今回新たな条例を作って、こういった広がりを持たせていこうとすること、文化庁も同じような方向性があると思う。

ただ単に地域の文化芸術がそれぞれ開かれるのではなく、横の広がりや経済の発展を考えていると思う。

(委員長)

若い人の意見ということに関連して、インターネットの回答も可能ということでQRコードもある。これはどのようなインターネットでの回収をイメージしているか。若い方は紙で返してこないと思うので、若い方のご意見を反映させようと思つたらGoogleフォームのような簡単に回答できるものがよいと思う。

(事務局)

サンプルがないため、具体的なイメージがつきにくいですが、質問に対して回答を選んでいくといったアンケート用紙と同じ内容をウェブ上で実施する。

(委員)

文教短期大学の学生は宇治市民か。

(委員長)

宇治市に住んでいる、あるいは近隣に下宿している学生もいる。近くの城陽市や京都市内から通っている学生もいる。

(委員)

学生は宇治市にとってどのような人か。このサンプルは、宇治市にとってどのような関係があるのか分からない。

(委員長)

宇治に住んでいようがいまいが、事務局の判断として、宇治市民のとしての認識を持っているのか、サンプルになるのかということ。

(事務局)

宇治市の大学に通っている学生なので、宇治市に関わりを持っているということ。宇治市に対する思いというものも持っていただけだと思っている。宇治市に

住まわれている方だけでなく、例えば通勤通学されている方についても様々な宇治市の良さや文化についてご意見を頂戴したい。

(委員長)

補足。宇治学は地域の学校や教育委員会それと大学の学生・教員が一緒になって作っている。そういった中で100%でなくとも宇治市への意識持っておられるのではないか。宇治市との地域連携を熱心にされていて、様々なプロジェクトを通して触れる機会はあるという気はしている。

(委員)

宇治は3つに分かれるとよく言われるが、中宇治にある大学か。

(委員長)

槇島。

(委員)

あまり宇治の市街地に来ることはないのでは。

(委員長)

来ている学生は来ている。大久保とかに行っている学生もいる。槇島も団地があるエリアで一緒にプロジェクトをしたこともあるし、中宇治でも当然あった。

6. その他

(1) 次回委員会日程調整について

事務局から次回委員会の日程調整について依頼。

—閉会—